

植物と人々の博物館メールマガジン

第 94 号 2022 年 12 月 7 日発行

2023 年は国際雑穀年



小さな庭や道端のプランタで有機野菜などを栽培しています。道行く人たちから、時々、栽培方法などを聞かれます。バラやジャスミンなどはよくお褒めにあずかります。今年も柚がたくさん実りましたので、ご近所に差し上げています。カリンの実やヒサカキもよく香っています。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になって、一緒に博物館づくり活動をしてくださるとうれしいです。

○予定

1) 開館・作業予定日：休館します。

2) 公共の場における再公開について、試案を検討しています。

3) 民族植物学ノオト第 16 号の原稿は 12 月を締め切りにして募集しています。ご寄稿ください。

森とむらの図書室、日本村塾、農学校などの小史を記録します。その後の冒険学校およびちえのわ農学校、日本村塾の小史も記録します。

第 15 号までのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

4) 電子書籍：

一部公開中の雑穀の民族植物学関係の書籍、自選集 III 『日本雑穀のむら』は完結し、日本全国の調査記録を公開しました。

www.milletimplic.net/milletworld/milletsn/jnmpilvil.html

続いて自選集 IV 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』の読み書きを進めて、順次公開します。

自選集 VI 『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。これら 4 冊のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。

5) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/> に含めて民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回収録されます。

<http://www.milletimplic.net/>

6) 森とむらの図書室への寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」、長濱和代著『ヒマラヤの森はなぜ守られたのか』をいただきました。ありがとうございました。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテックで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のために会員になってくださるか、ご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしくお願ひします。未知の方を含めてご寄付を頂いています。ありがとうございます。

自然文化誌研究会に基金費目を設けました。費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。郵便振込口座は下記です。

講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

8) 「クリンネス」へのエッセイ隔月連載は来年も続けます。今年は花の香でしたので、来年は色を話題にします。「つぶつぶ」への連載も予定しています。

2. 自然文化誌研究会

本年の主な活動予定は下記ウェブサイトにあります。

冒険学校まふゆのキャンプ：小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・滝探検

・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待っています！

日程：12月24日（土）～26日（月）

場所：山梨県小菅村、清水バンガロー

対象：小学3年生～中学3年生、定員15名。

スタッフ：村の人々と東京学芸大学生

費用：会員26,000円、非会員28,000円

申し込み：葉書か下記 e-mail に、住所、氏名、年齢（学年）、性別、電話番号を記入の上、ご参加申し込みをなさってください。

3. 雑穀街道普及会：

この活動は、中川さんや編集子のような、出アフリカ古層 A 型の子孫、縄文人の末裔を自認するものは自然と共存して生業を継承し、過剰便利に抵抗して雑穀栽培を伝承してきました。

縄文土器を博物館に展示することも大事ですが、先人が生きたまま継承してきた雑穀の種子を切らさないことにも関心を向けていただきたいと思います。かさねて、日本列島における縄文農耕の歴史、その伝統的知識体系の蓄積を絶やさないように、もう時が迫

っているので、消滅させないように切にご助力をお願いします。

○報告

1) 雑穀街道協議会準備会づくり：

FAO 世界農業遺産の申請団体となる雑穀街道協議会を創るために、準備活動を進めています。雑穀研究会が協賛団体になってくださいました。現況は下記のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/approval22811.pdf>

説明冊子第3版を発行しました。相模原市南区の勝坂遺跡を加え、改訂しました。雑穀街道地域は縄文時代中期の勝坂土器文化圏に重なります。印刷物を配布くださる方には必要部集を郵送します。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/ms22n3v.pdf>

2) 自給農耕ゼミ（佐野川）：

佐野川の宮本さんの畑で収穫したキビは山口さんの醸造所において発泡酒にします。栽培・加工・調理法などを学びたい方はご連絡くださり、ご参加ください。時期に応じてお誘いします。

簡単な栽培方法は次のサイトにも公開してあります。家庭菜園や雑穀に関するご質問にはメールくだされば、いつでもお答えします。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

3) NPO さいはら：

9月末に理事会で雑穀街道のことなど検討してくださいました。2023年1月に小菅村の植物と人々の博物館を見に来てくださるそうです。

4) 佐野川の宮本茶園で栽培したモロコシを脱穀、精白後に、自給農耕ゼミ（佐野川）などにご参加くださった方に、100gですが差し上げます。

5) 一般社団法人ジャパングビーガンつぶつぶ（JVATT）

五穀豊穰つぶつぶ新嘗祭 会場 30名ほど、ZOOM100名ほどの参加でした。

日時：11月23日、場所：早稲田のつぶつぶのスペース

話題提供：岩崎信子さん；有機農業の里埼玉県小川町で自然農の雑穀畑を耕し、その過程をワークショップとして運営しながら未来食のセミナー講師、そして料理コーチとしてつぶつぶ料理教室を運営。木俣美樹男；日本の雑穀街道とインドの穀菜食文化

とても熱意ある話し合いができました。農耕と農業の比較に関心が高かったようです。

資料公開 www.milletimplic.net/collegefores/milculvegoriginal.pdf

6) 環境を考える相模原の会

日時：12月6日、ZOOM9名参加。話題提供：木俣美樹男、相模原市の雑穀街道

資料公開 <http://www.milletimplic.net/collegefores/envsagami.pdf>

7) OK シードプロジェクト学習会 「雑穀街道」をFAO世界農業遺産に！

山村の小規模農耕における生物文化多様性を保全する 資料は下記のサイトにあります。

www.millettimplic.net/collegefores/okseedlec.pdf

また、動画はその後に編集されて下記サイトで見られます。950名以上が視聴くださっています。

<https://www.youtube.com/watch?v=jucNJsWpivI>

○予定

1) 東京学芸大学創基 150 年記念の雑穀発泡酒クラフトのプロジェクトをご相談いただきました。

自給農耕ゼミと一緒に、宮本さんの畑で栽培したキビとホップで藤野の醸造所に委託して醸す予定です。見積をいただいたので、学大創基と国際雑穀年記念発泡酒として企画を作成して、ご参加・寄付をお願いします。

2) 家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン オンライン学習会

日時：2023 年 1 月 20 日、19：30～21：00

話題提供：木俣美樹男、日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか

3) トランジション・ジャパン オンライン学習会

日時：2023 年 1 月中予定、19：30～21：00 zoom のみの話し合い

話題提供：木俣美樹男、(仮題) 雑穀の歴史から見た心の移行

雑穀街道普及会は下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45 年間、定点参与観察、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、さらに「街道美味」は雑穀製品、佐野川茶やクラフト・ビールを紹介していますので、下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカ、インドなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は、いよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。

全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が 90 歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。

2023 年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf などは下記のサイトにあります。

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。人々との間に信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。

連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

第8回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：2023年2月5日（日）14：00～16：00

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）（定員：会場15名、オンライン20名）

話題提供：富澤太郎さん、上野原市西原の農家

仮題：雑穀街道、西原の暮らし

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。

環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。

今この時、人新世の変曲点で、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンス生き物の文明を日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。

よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記 CUUES サイトにあります。

Civic United University for Environmental Studies 環境学習市民連合大学
(millettimplic.net)

<http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

5. 国際雑穀年記念・つぶつぶパワー オンライン・イベント・全3回予定

詳細が確定しましたら、ご案内します。

第一回 2023年1月21日（土）19:00～21:00

第二回 2023年2月18日（土）19:00～21:00

第三回 2023年3月18日（土）19:00～21:00

主催：ワノサト・プロジェクト

共催：一般社団法人ジャパングビーガンつぶつぶ

協力：NPO 法人トランジション・ジャパン

6. 雑穀研究会では、2023 年の国際雑穀年 (International Year of Millets) を記念し、国際シンポジウムを以下のような要領で開催いたします。

みなさま、ふるってご参加下さい。なお、参加は事前申込制となっております。

添付ファイルの QR コードから、あるいは、以下のリンク先からお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSegysUQHQN45-16_cIaUcVo5GpGNHF7QxwuMS2B-6XfxFC-Q/viewform

また、会場の日本大学生物資源科学部へのアクセスは、こちらをご覧ください。

会場へのアクセス https://www.brs.nihon-u.ac.jp/access_map/

国際雑穀年 (International Year of Millets) 記念シンポジウム

雑穀の新たな潮流

開催日： 2023 年 1 月 7 日

開催地：日本大学生物資源科学部 4 階大講堂（住所：神奈川県藤沢市亀井野 1866）

開会挨拶, 記念講演

13:00-13:10 雑穀新時代の幕開け；雑穀研究会会長、日本雑穀協会会長 倉内伸幸
招待講演

13:10-13:40 台湾で雑穀が大流行！ 屏東科技大学 助理教授 林 資哲
シンポジウム

13:45-15:00 雑穀研究最近の進歩

アワの遺伝学 県立広島大学 教授 福永健二

キヌアの作物学 日本大学 教授 磯部勝孝

雑穀の考古学 奈良文化財研究所 室長 庄田慎矢（オンライン）

15:00-15:30 休憩

総合討論

15:30-16:00 次世代に伝える雑穀ストーリー

座長：大阪学院大学教授 竹井恵美子

パネリスト：屏東科技大学助理教授 林 資哲、県立広島大学教授 福永健二、
雑穀クリエーター 梶川愛、信州大学特任教授 井上直人

閉会挨拶

16:00-16:05 日本熱帯農業学会会長 東京農業大学教授 志和地弘信

主催：雑穀研究会 後援：日本雑穀協会、日本熱帯農業学会

参加申込方法：添付ファイル中の QR コード、あるいは以下のリンクから、12 月 15 日までに申し込んで下さい。

定員 150 名になり次第受付を終了いたします

問合せ先：kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

参加申し込みリンク

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSegysUQHQN45-16_cIaUcVo5GpGNHF7QxwuMS2B-6XfxFC-Q/viewform


~~~~~

**植物と人々の博物館** (山梨県小菅村) : 館長 : 木下善晴、顧問研究員 ; 安孫子昭二

研究員 : 木俣美樹男 (東京、専任、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム) ほか

公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行 : 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事 : 宮本透

民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村 / ミューゼス研究会 / トランジション小菅 (山梨県小菅村) :

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会 : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長 : 黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

**環境学習市民連合大学** <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当 : 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~